

御代田 消防署 が みなさんへ

連絡先 佐久広域連合 御代田消防署(32)0119

平成26年御代田消防署管内消防統計(平成26年1月~12月)

火災件数			救急件数			救急法講習会	
建物	2	(1)	急病	423	(388)	回数	19 (27)
車両	0	(1)	一般負傷	112	(94)	受講者数	566 (594)
その他	3	(3)	交通事故	53	(67)	消防訓練	
合計	5	(5)	その他	74	(69)	回数	26 (32)
死者1名			合計	662	(618)	参加者数	3,536 (3,027)

佐久広域連合消防本部における火災件数 124件(126件)
 救急件数 9,919件(9,099件)
 ※()内は平成25年の件数



山火事に注意してください 3~5月は、春の山火事予防運動期間です。

消防庁によると、全国の山火事発生状況は、秋の終わりから増えはじめ、春先(3月~5月)に多く発生しています。これは森林内に落ち葉が積もって燃えやすい状態になっていることや、空気が乾燥した状態になること、また春先は行楽や山菜採りのために山に入る人が増えるほか、農作業で行われる火入れ(土地を肥やすため山野の枯草や雑木を焼くこと)などが山林に飛び火することが原因と言われています。

これからの季節は屋外で火を取り扱う機会が増えますが、風の強い日は火入れを行わないなど、火の取り扱いには十分注意しましょう。



ごみの焼却は法律で禁止されています

家庭や会社から出たごみなどは、種類にかかわらず、自宅や畑などで野外焼却を行うことはできません。

※病虫害のついた木の枝の焼却、たき火などの日常生活を営むための軽微な焼却は、例外的に野外焼却が認められる場合があります。

もういいかい 火を消すまでは まあだだよ

平成26年度全国統一防火標語

児童虐待・DV24時間ホットラインの電話番号が変更になります

変更日時 4月1日(水) 午前9時より
 新番号 026-219-2413

問い合わせ先 長野県庁県民文化部
 こども家庭課こども福祉係
 026 (235) 7099

世界・日本中のご家族、友人へ

毎週土曜日は
Ustream(コーストリーム)で御代田を見よう!
 午後6時45分から 町の一週間がライブで楽しめます。
 パソコン・スマートフォンで。
 URL:<http://www.ustream.tv/channel/miyotanow>
 問い合わせ先 (株)西軽井沢ケーブルテレビ(32)2157



今月は、保健師の
坂本夏希さんです。

子どもによる医薬品の誤飲事故に注意!!

子どもによる大人用の医薬品の誤飲が多く発生しています。消費者庁に寄せられた誤飲事故情報によると、誤飲した子どもの年齢は1～2歳が78.4%をしめています。誤飲した医薬品の剤形は、錠剤が76.7%で最も多く、シロップ剤、顆粒剤を合わせると内服薬が91.2%を占めています。誤飲した医薬品の薬効は、総合感冒剤が最も多く、次いで抗不安剤、解熱鎮痛消炎剤、催眠鎮静剤と続きます。子どもの行動の特徴をふまえ、特に、子どもが誤飲すると入院等の重い中毒症状を表すリスクが高い医薬品(血圧および血糖降下剤、気管支拡張剤、向精神薬)の家庭における保管については十分注意しましょう。

※月齢・年齢と事故の特徴

月齢・年齢	行動の特徴	事故の特徴
6か月ごろから 1歳半ごろまで	身近にあるものを手に取りなんでも口に運ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 口に入れることが想定されていない医薬品(塗り薬など)でも誤飲する ✓ 通常の取り出し方でない方法で誤飲(包装ごと口に入れる、袋を噛んでやぶるなど)
1歳半ごろから 2歳まで	周囲への興味・関心が高まり人の模倣をする	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 足場を使って高い場所にある医薬品を取り出し誤飲 ✓ 包装容器を通常の取り出し方であけて誤飲
2歳ごろから	興味を持って好んで手にとる	<ul style="list-style-type: none"> ✓ お菓子と間違えて誤飲(ドロップ、ゼリー等の医薬品) ✓ 子どもが飲みやすいように甘く味付けされたシロップ剤を多量に誤飲 ✓ 足場になるものを自ら持ってくるなどして高いところにある医薬品を取り出し誤飲

!家庭での医薬品の保管のポイント!

- 子どもの手の届かない、見えない所に保管しましょう。保管する場合には、鍵のかかる場所に置く、取り出しにくい容器に入れるなど複数の対策を講じましょう。
- 服用後はそのまま放置せず、速やかに子どもの手の届かない場所に片付けましょう。

誤飲事故が発生した際の対処

万が一、お子さまが医薬品を誤飲した場合は、お子さまの状態や薬の名称、飲んだ量を確認した上で、直ちに専門の相談機関に連絡し、必要に応じて医療機関を受診しましょう。

【主な相談機関】

- ◆ 小児救急電話相談：休日、夜間の子どもの急な病気への適切な対処の仕方や受診する病院等についてアドバイスを受けられます。
連絡先：#8000（通話料は相談者負担）
- ◆ 公益財団法人日本中毒情報センター中毒110番：医薬品、化学物質、動植物の毒などによる中毒事故への対処についてアドバイスを受けられます。（通話料は相談者負担）
連絡先：大阪 072-727-2499（24時間対応）
つくば 029-852-9999（9～21時対応）

●10カ月健診時に撮影した写真を2カ月に分けて紹介しています。

